









































1. 平成27年4月～6月期の景気動向

今期のDI平均値は△23.8ポイントで、前期(1～3月)の29.0ポイントから5.2ポイント回復しており、建設業、サービス業ではより回復傾向にある。全体的に今期、来期(7～9月)の見通しとも上向きになっているが、まだまだ地域経済の本格的な回復は遠い。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 40 (△ 75) 	△ 20 (△ 75) 	△ 20 (△ 22) 	△ 21 (△ 32) 	13 (△ 50) 	0 (△ 50) 	△ 36 (△ 60) 	△ 16 (△ 45) 	△ 15 (△ 31) 	△ 30 (△ 32) 
採算		△ 30 (△ 67) 	△ 40 (△ 83) 	△ 31 (△ 29) 	△ 27 (△ 36) 	△ 15 (△ 29) 	△ 13 (△ 29) 	△ 34 (△ 44) 	△ 25 (△ 42) 	△ 35 (△ 37) 	△ 35 (△ 42) 
資金繰り		0 (△ 33) 	△ 40 (△ 50) 	△ 13 (△ 18) 	△ 15 (△ 20) 	△ 13 (△ 13) 	△ 25 (0) 	△ 25 (△ 40) 	△ 20 (△ 40) 	△ 16 (△ 28) 	△ 21 (△ 33) 
業況		△ 30 (△ 67) 	△ 40 (△ 91) 	△ 14 (△ 15) 	△ 24 (△ 34) 	△ 12 (△ 12) 	△ 14 (△ 13) 	△ 36 (△ 38) 	△ 22 (△ 44) 	△ 27 (△ 42) 	△ 29 (△ 37) 
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		購買力の他地域への流出		需要の停滞	
	2位	民間需要の停滞		原材料価格の上昇		販売単価の低下		消費者ニーズの変化への対応		材料等仕入単価の上昇	
	3位	請負単価の低下		生産設備の不足・老朽化		仕入単価の上昇		需要の停滞		店舗施設の狭隘・老朽化	
業種別 コメント		<p>今期状況、来期見通しとも前期に比べ大幅なプラスとなっているが、他業界に比べると依然として厳しいDI値となっている。</p> <p>公共事業の減少が続き、材料仕入単価も上昇傾向であるため来期の採算、資金繰りにしても厳しい状況が続くと思われる。</p>		<p>来期見通しについて、各項目ともやや回復傾向にあるが、依然として需要の停滞、原材料の上昇が問題点として挙がってきている。</p> <p>ものづくり補助金の効果もあり、今期、または来期に設備投資を予定する事業所も増えてはいるが、資本力に乏しい小規模事業所は設備の老朽化に苦慮しているのも現状である。</p>		<p>今期状況、来期見通しとも前期に比べほぼプラスとなっており、業界の景気は上向きとなってきている。しかしながら販売単価の低下や仕入れ単価の上昇が当面する課題として挙がってきており、収益性は回復していない。</p> <p>他社と同じもの、サービスを提供しているだけでは価格競争から脱出出来ないため、業況が上向いている今だからこそ新しいチャレンジが必要である。</p>		<p>今期状況、来期見通しとも回復の兆しが見られるが、当面の問題点として購買力の他地域への流出や需要の停滞が根強くあり、楽観視はできない状況が続いている。</p> <p>来期は夏休み、お盆休みと行事が多く、消費者の購買意欲も高まるため、各行事にあわせて商品を購入してもらうための仕組みづくりが必要である。</p>		<p>今期は歓迎宴会等の需要があり、売上、業況が回復傾向であったが、材料等仕入単価は依然として上昇傾向にあり、採算についてはなかなか回復が見られない。</p> <p>他業界でも若干の回復傾向が見られるため今後も業況の回復が期待されるが、繁盛店とそうでない店との二極化も進んでいる。</p>	



※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※()は前回調査時のD・I値